

# みずチャンネル

会津若松市上下水道局広報

つながるあいづわかまつ



上下水道局 ホームページ 上下水道局 Instagram

令和8年6月号  
No. 26

出典 (公社) 日本水道協会

# 水道週間

第68回



6月1日(月)～6月7日(日)は「水道週間」です。  
この機会に、水道について考えてみませんか。

## 水道週間児童生徒作品展

市内と湯川村の小中学校を対象に、水道をテーマにした作品展を開催します。  
子どもたちの水への思いが込められた作品の数々を、どうぞご覧ください。

- とき** 7月10日(金)～14日(火) 午前9時～午後7時  
※初日は午後1時から、最終日は午後3時まで
- ところ** 生涯学習総合センター(會津稽古堂) 1階市民ギャラリー
- 展示** 図画・書写の各部門入賞作品  
水道展示コーナーを新設予定

◎問い合わせ…上下水道局総務課 (☎ 22-6073)

**「上下水道ガイドブック (デジタル版)」を作成しました**  
水道・下水道の工事、引っ越し又は料金支払い手続きなどについてはこちら

◎問い合わせ…  
上下水道局総務課 (☎ 22-6073)

## 夏休み親子下水道教室

- 日時** 7月26日(日) 午前10時～正午
- 場所** 下水浄化工場 (神指町大字北四合字伊丹堂99)
- 対象** 小学4年～6年の児童と保護者 30名(児童・保護者合わせて)
- 応募方法** QRコードから申し込み
- 応募期間** 7月1日(水)～17日(金)

◎問い合わせ…  
下水道施設課 (☎ 23-9507)

## あいづ土根性配布方法変更のお知らせ

「あいづ土根性」は、下水汚泥ともみ殻を発酵させた汚泥肥料です。公平性確保のため、今回より事前抽選を行い、当せん者の方に配布します。

**抽選申込日時 (土・日曜日、祝日を除く)**  
6月1日(月)～8日(月)  
午前10時半から午後4時半(正午から午後1時は除く)

**受付場所** 下水浄化工場(神指町大字北四合字伊丹堂99)

**肥料配布日** 6月23日(火)～25日(木)

**注意事項**

- 配布期間中、1人1日のみで100kgまでの配布になります。また、各日定員30名までになります。※無償配布
- 当せん発表日・発表方法は抽選申込時にご案内します。
- 申し込みは、期間中1人1回までになります。

◎問い合わせ…(株)ウォーターエージェンシー  
あいづ管理所(下水浄化工場2階・☎ 24-6348)

# 令和8年度予算をお知らせします

◎問い合わせ…経営企画課(☎23-7227)

## 水道事業

### 水をつくるための収支【収益的収支】

※金額は消費税及び地方消費税込みです

<b>【収入】</b> 31億8,956万円	
水道料金	27億8,893万円
他会計からの繰入金	1億3,713万円
その他	2億6,350万円

<b>【支出】</b> 30億8,847万円	
人件費	2億5,382万円
借入金の利息	1億2,447万円
減価償却費	12億925万円
修繕費や委託料など	15億93万円

**【当年度純利益】** 1億109万円

### 主な事業

- ◆ 水道施設を未来へ引き継ぐための費用(老朽管等の布設替工事など)……………9億817万円

### 施設をつくるための収支【資本的収支】

※金額は消費税及び地方消費税込みです

<b>【収入】</b> 3億5,061万円	
借入金	2億2,600万円
国庫補助・一般会計からの繰入金など	1億2,461万円

<b>【支出】</b> 16億8,523万円	
施設の改良費など	10億2,703万円
借入金の返済	6億5,820万円

**【収入不足額】** 13億3,462万円

※収入不足額は、内部留保資金で補填

## 下水道事業

### 汚水・雨水を自然に還すための収支【収益的収支】

※金額は消費税及び地方消費税込みです

<b>【収入】</b> 35億6,285万円	
下水道使用料	17億3,124万円
他会計からの繰入金	9億2,474万円
その他	9億687万円

<b>【支出】</b> 33億3,788万円	
人件費	2億1,379万円
借入金の利息	2億2,809万円
減価償却費	20億2,597万円
修繕費や委託料など	8億7,003万円

**【当年度純利益】** 2億2,497万円

### 主な事業

- ◆ 快適で衛生的な住環境を造るための費用(下水道管理設工事(汚水)など)……………8億6,209万円
- ◆ 下水道施設を未来へ引き継ぐための費用(下水浄化工場改築工事など)……………3億3,034万円
- ◆ 水害に強い都市基盤を造るための費用(雨水幹線整備工事など)……………2億4,960万円

### 施設をつくるための収支【資本的収支】

※金額は消費税及び地方消費税込みです

<b>【収入】</b> 14億218万円	
借入金	7億5,320万円
国庫補助・一般会計からの繰入金など	6億4,898万円

<b>【支出】</b> 27億6,233万円	
施設の整備・改良費など	14億4,684万円
借入金の返済	13億1,549万円

**【収入不足額】** 13億6,015万円

※収入不足額は、内部留保資金で補填

## 経営審議会委員を募集します

**募集期間** 6月1日(月)～12日(金)  
詳細はQRコードからご覧ください。  
◎問い合わせ…経営企画課(☎23-7227)

**水道料金等の支払い・開閉栓に関する問い合わせ**  
上下水道料金センター  
☎22-6172

**水道のトラブルに関する問い合わせ**  
会津若松アクアパートナー(株)  
☎22-6171

**下水道(使用料以外)に関する問い合わせ**  
下水道施設課  
☎23-9507

## 令和7年度水質検査の結果

すべての項目が、基準値内でした。  
詳細はQRコードからご覧ください。  
◎問い合わせ…上水道施設課(☎22-6177)

# 100年続いた会津若松の水道

# 次の100年を一緒に考えてみませんか

昭和4年3月、滝沢浄水場の完成とともに本市の水道事業は始まりました。令和11年には蛇口をひねれば安全な水が出る——このあたりまえを、これから生まれてくる

給水開始から100年を迎えます。子どもたちに引き継いでいくために、まさに今、水道事業は大きな転換点を迎えています。

## 1. これまでの100年 — 広げる時代から、守る時代へ

本市の水道は、市民の願いから生まれました。大正時代まで会津若松地方の飲料水はほとんどが井戸水で、雨が続きと水質が変わり、伝染病の発生も多く見られました。衛生的な水を安定して届けるため上水道の整備が強く望まれ、大正13年12月の市議会での議決を経て、大正15年5月に工事着手。昭和4年3月に滝沢浄水場が完成し昭和4年4月から給水が始まりました。

創設時は計画給水人口5万人、1日最大給水量5,550立方メートルの規模でした。戦後の人口増加や生活様式の変化に合わせ、第1次から第10次までの拡張事業を重ね、最大で計画給水人口13万8千人、1日最大給水量72,000立方メートルを目指した時期もありました。平成30年には老朽化した滝沢浄水場を全面更新し、新滝沢浄水場（愛称：こしえる）として生まれ変わっています。

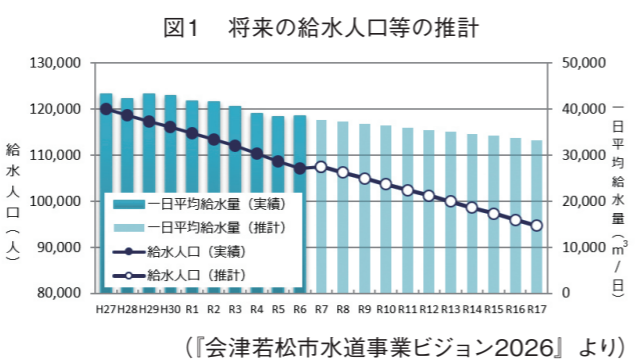
**そして今、水道事業は「広げる時代」から「守り、引き継ぐ時代」へと大きく変わろうとしています。**人口構造の変化、施設の老朽化、物価・維持管理費用等の上昇—これらは会津若松市だけの課題ではなく、全国の水道事業者が共通して直面しているテーマです。本市としても、これまで以上に計画的で効率的な経営が求められています。

## 2. 水を使う人が、10年で約1.3万人減ります

『会津若松市水道事業ビジョン2026』では、給水人口が令和6年度末の約10.7万人から、10年後の令和17年度には約9.4万人まで減ると推計しています。(図1) 10年間で約1.3万人、水を使う方が減っていく見込みです。

水道は「使う人が多いほど1人あたりの負担が軽くなる」仕組みで運営されています。逆に言えば、使う人が減ると、水道管の維持や浄水場の運転にかかる費用を、より少ない人数で支えることとなります。

**水道管や浄水場は、人口が減ってもすぐに減らすことはできません。**水は市内のすみずみまで届ける必要があるためです。結果として、1人あたりが負担する「見えない維持費」は、これから少しずつ増えていくこととなります。



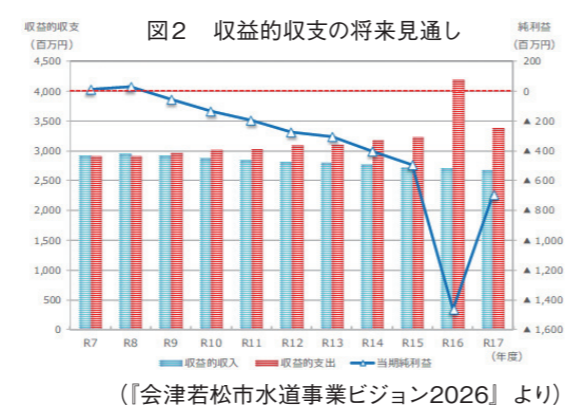
## 3. 令和9年度以降、赤字への転換点を迎えます

水道事業は、皆様からいただく水道料金を主な収入源として運営されている「独立採算」の事業です。税金からの繰り入れは、特定の場合を除き行われません。

収入となる水道料金は、給水人口の減少と節水機器の普及などにより、今後も減っていく見込みです。一方で、水道管や浄水場を安全に保つための支出は増えていきます。

**試算では、令和9年度以降、収入が支出を下回る「赤字」の状態に転換する見込みです。**(図2)

このままの状態が続けば、将来的には施設の更新や修理にあてる資金が不足し、「蛇口をひねれば安全な水が出る」という毎日のあたりまえを維持することが難しくなっていきます。

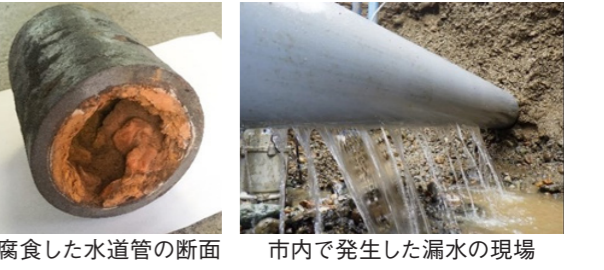
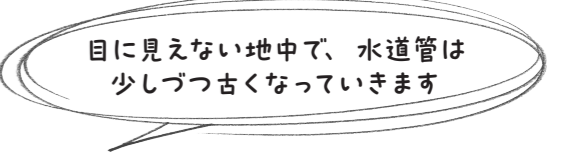


## 4. 施設の老朽化も、同時に進んでいます

お金の話と合わせて課題となっているのが、水道施設そのものの老朽化です。本市の水道は昭和4年の給水開始以来、人口増加や生活様式の変化に合わせて拡張を重ねながら整備されてきました。水道管の耐用年数は一般に40年とされています。本市では昭和時代に拡張を重ねて整備した水道管の多くが、順次この更新時期を迎えつつあり、計画的に取り替えていく必要があります。

地中に埋まっている水道管は、目に見えないまま古くなっていきます。古くなった管は漏水や赤水の原因になったり、地震で壊れやすくなったりするため、計画的に取り替えていく必要があります。浄水場も同じく、ポンプや配管、電気設備などを順次更新していかなければなりません。

**これらの更新には、長い年月と多くの費用がかかります。**



## 5. これからも、水道を守り続けるための『3つの柱』

厳しい状況ではありますが、健全な事業運営を進めていくため令和7年度に『会津若松市水道事業ビジョン2026』を策定しました。安全で安心な水を将来にわたって安定してお届けするための本市水道事業の基本方針と施策をまとめた計画です。今後はこのビジョンのもと、次の3つを柱として事業を進めていきます。

### 安全

**水道水の品質確保に配慮した安全な水道**

水源の保全から蛇口まで水質管理を徹底し、安全でおいしい水道水を供給します。

### 強靱

**確実な安定給水のための強靱な水道**

デジタル技術(水道DX)も活用し、施設の計画的な更新と耐震化を効率的に進めます。

### 持続

**市民のぐらしを支える持続可能な水道**

健全な経営状況の維持、活力ある人材・組織づくりを行い、持続可能な水道の実現を目指します。

ここまでお伝えしてきた、給水人口の減少などに伴う料金収入の減少、水道管や浄水場の老朽化による更新費用の増加、さらに近年の物価・維持管理費用の上昇などの要因が重なり、将来にわたり安全で安定した水道を維持することが難しくなる見通しです。健全な経営を維持していくために、まずは市として「より一層の経費節減」に全力で取り組むとともに水道料金の見直しについても検討を進めていかなければなりません。私たちの暮らしに欠かせない水道のことですので、今後の検討状況については随時お知らせし、進めてまいります。

次号以降では、水道施設の老朽化の現実、市の徹底的なコスト削減(ダウンサイジング)や最新技術を活用した漏水調査などの経営努力、そして水道の予算や経営審議会の状況などをテーマにお伝えしていく予定です。

◎問い合わせ…経営企画課 (☎ 23-7227)

ビジョン	経営戦略	アクションプラン	水道の歴史